エジプト初期王朝時代の石製容器副葬の階層構造と社会的機能

Hierarchical Structure and Social Function in Mortuary Consumption
of Stone Vessels in Early Dynastic Egypt竹野内 恵 太^{*}
TAKENOUCHI Keita

ABSTRACT In Early Dynastic Egypt, stone vessels were manufactured on a large scale, probably by full-time specialists attached to the government or palace. The stone vessel was established as the primary piece of burial equipment during this period. Scholarship has focused on aspects of stone vessel production such as ‘large-scale production’ and ‘attached specialisation’. However, the mortuary use of stone vessels has not been analysed in depth. Therefore, this paper clarifies the structure of their mortuary use and the background of their large-scale production, by comparing the assemblages of stone vessels found in tombs with the social class of the deceased.

It was found that in the First Dynasty, the tombs of the higher classes in the Memphite region contained a variety of wares, including specialty wares and vessels of stone such as mudstone, basalt, and tuff from remote quarries. But in the Second Dynasty, the geographical distribution of stone vessels expanded. In parallel with that, the hierarchical ranking of stone vessels appeared also in local sites. It is argued that during the Second Dynasty the mortuary consumption of stone vessels was widely promoted in the whole Nile Valley by the royal court and that, kings and high officials distributed stone vessels to powerful local clans in order to create bonds between the center and local areas. At any rate, stone vessels were the preferred political and symbolic resource for promoting regional integration throughout the Early Dynastic society of Egypt.

I. はじめに一問題提起と研究目的一

エジプトでは、初期王朝時代（c. 3050～2650 BC）に入ると支配権力の広域的な浸透と政治的な地域統合に伴って、物質文化は各地で斉一性を帯びる。大型墓のプランは共通する構造になり、副葬土器は日常利用の土器が全土で等しく選択された（Engel 2013; Hendrickx 2014）。ケンプは、初期国家成立期である当該期の物質文化を「支配者層が選択し、洗練した選好のセット」と表現している（Kemp 2000, 237）。このような「選好セット」の中でまず想起する器物に石製容器が挙げられる。

石製容器は、岩石の美しい色調・葉理に加え、素材獲得および容器状に加工する作業量の多さから、極めて高価な副葬品であったことが窺われる。初期王朝時代の支配者層が埋葬された北サッカラとウンム・エル＝カアブの墓地には膨大な石製容器が副葬され、この時期に石製容器生産は古代エジプト史を通じて最興隆期を迎える。誇示的消費とも解釈できるような現象が早くから認識され、それゆえ石製容器の生産・流通は当時の支配権力下で管理統制されていたと考えられている。また、石製容器が副葬された墓は、大量生産化を迎える初期王朝時代でもある程度限定的であった。石製容器を副葬できた被葬者は生前経済的に豊かで、社会的地位の高い人物であったことは想像に難くない。⁽¹⁾

* 早稲田大学文学学術院助手

Research Associate, Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

図1 エジプト全図

当該期の石製容器の研究では、器形分類や編年研究 (Emery 1949; Klasens 1958; 1959; 1960; 1961; Kouli 1978; Hendrickx 1994; Kopp 2007), 産地同定 (Aston 1994; Harrel et al. 2000; Mallory 2000; Bloxam et al. 2014) などの基礎研究を経て、近年では工房址出土の製作道具や博物館資料の遺物観察によって製作技法の復元に目が向き始め、より具体的な生産メカニズムを解明しようとする動きがある (Schmidt 1988; Jórdeczka 2004; Hendrickx et al. 2011; 竹野内 2015; 2016)。ただし、大量生産化という現象は得てして専門化など供給面での重要性ばかり取り上げられる (Hendrickx 2011)。初期国家の成立期において大量副葬されるという特異な現象の背景について具体的な議論はない。石製容器の増加は上位層において経済的機会が増加したことを示すとしばしば説明されるが、石製容器自体の社会的機能・意味といった需要面の具体像を積極的に評価しようとする機運にはないのである。器物の需要はまさに生産における動機であり、需要面を明

らかにすれば、大量生産化の背景やそれを必要とした当時の社会状況をより深く考察することができる。

石製容器は基本的に副葬品であるため、需要とは副葬品としての社会的機能・意味に対するものと捉えることが可能であろう。こうした機能・意味を理解するためには、副葬状況を考察し、副葬の原理や構造を明らかにするのが不可欠である。そこで副葬状況を分析するに当たって、石製容器と共変動する、あるいは比較できる墓の属性を設定する。石製容器は先述した通り、富裕墓に副葬される経済的価値の高い器物である。一方で、その器種組成や石材構成は各墓でバラつきがあることから、より具体的な副葬状況を考える必要がある。よって、石製容器の需要面を研究する端緒として、本稿ではまず被葬者の階層性と器種組成および石材構成のアセンブリッジの相関関係を分析する。

本稿では、主として石製容器副葬に見られる階層性を器種構成と石材構成から地域および時期ごと (第1・2王朝) に分析し、石製容器が大量副葬された背景について考察することを目的とする。まず、

(1) 初期王朝時代において石製容器は副葬品の約20%を占めるようになる (Hendrickx 2011, 95)。また、エリス (Ellis) によるタルカンでの統計分析では、石製容器を副葬する墓は概して大型墓に密集するとしている (Ellis 1992)。さらに、コップによれば、第1王朝時代になると各墓間の石製容器副葬点数の開きが大きくなることから、石製容器の富裕層への集中が顕現するという (Kopp 2007)。

石製容器を副葬した被葬者の社会的格差の設定や器形・器種分類、前提条件を明示する。次に、社会階層と石製容器の多様な器種や石材の相関性を分析し、どの位層の被葬者がどのような器種組成・石材構成の石製容器を保有するのかを明らかにする。また、分析に移る前に、当時の支配者層の集団が埋葬された北サッカラ台地東縁部の大型マスタバ墓群とアビドスのウンム・エル＝カアブ墓地出土の石製容器を概観し、その卓越性と特異性を確認することで、続く分析の比較材料とする。最後に、分析結果を受けて、なぜ石製容器が当該期に大量生産されたのか、初期王朝時代の社会状況におけるその社会的価値・機能といった需要面を浮き彫りにしたい。

II. 分析方法

被葬者の社会的格差を相対化するにあたって、埋葬施設に費やされた労力（effort or energy expenditure）に着目し、石製容器組成との共変動を分析する指標を設ける。これは、墓壇面積や体積、構造、形態、副葬品の点数と種類数が墓地を組織する共同体内の階層秩序を反映するという考古学的假定と民族誌的類推に基づく（Binford 1971; Tainter 1978; Brown 1981; O'Shea 1984; Carr 1995）。

既往の先・初期王朝時代の墓制や社会的格差に関する研究では、墓壇面積や体積、構造を指標として社会階層を設定してきた（Bard 1988; Griswold 1992; Wetering 2003; Köhler 2008; 張替 1991）。初期王朝時代は社会階層の分化が著しいため、墓構造や副葬品の多寡から明確なピラミッド型の社会形態を構成するとされる（Köhler 2008, 384）。本稿でも墓構造の複雑性を指標として被葬者の社会的格差を相対化する。各階層の集団が保有する器種や石材、副葬点数をパターン化することで、石製容器の副葬構造と原理について一考できる。

1. 墓構造の分類と階層秩序の設定

本稿では初期王朝時代の墓を土壇墓、堅穴式墓、地下式横穴墓、マスタバ墓の4類に大別する（図2）。概ねこの順序にしたがって墓壇の掘削や建造に投下される労力は多くなる。さらに、煉瓦壁・埋葬室に続く戸口・木製天井張り・壁龕（副葬品収納スペース）の有無、部屋の数によって先の4類を細別し、墓建造にかかった労働投下量を基準として墓構造を類型化し、墓壇間で相対化する。また、墓構造の複雑性と墓壇規模の大小はどの遺跡でも概ね相関している一方で、アブ・ロアシュやナガ・エド＝デイル⁽²⁾については、同じ墓構造であるものの明らかに規模が大きなものも一部存在する。その場合は、墓構造の類型つまり階層を一つ繰り上げる形で補完した。その逆もまた同じである。対象とする遺跡は、発掘報告書に墓構造と規模が掲載されていて且つ副葬された石製容器の器形および使用石材を明記している遺跡を選定した（図1）。そして、墓構造は全遺跡で一樣ではないため、それぞれ遺跡ごとに墓構造を類型化し、被葬者の階層秩序を設定した（表1）。なお、ミンシャト・アブ・オマルについては、全て土壇墓であるため、墓壇規模から便宜的に設定した。各墓の帰属時期はヘンドリックスによる土器編年に依拠しているが（Hendrickx 1996）、セドメントおよびナガ・エド＝デイルについては報告書の記載に従った。また、バダリとカウ、ヘマミエ、マトマールは一括してバダリ地域として扱う。

(2) ここで言う規模は墓壇面積のことで、墓壇の長軸と短軸の積である。しかし、全ての墓が矩形ではないため、正確には規模の指数である。

土墳墓
(エルカブ遺跡 18 号墓) 0 50cm

竪穴式煉瓦壁墓
(ナガ・エド＝デイル遺跡 N1501 号墓) 0 2m

地下式横穴墓 (複室構造)
(ナガ・エド＝デイル遺跡 N1512 号墓) 0 2m

マスタバ墓
(ヘルワン遺跡 4/I 号墓) 0 10m

図 2 初期王朝時代の墓構造 (Reisner 1908, figs. 24, 25, 68, 70; Hendrickx 1994, pl. 37; Köhler 2013, figs. 6, 10 を元に作成)

表 1 本稿で扱う各遺跡の墓構造分類

東部デルタ地域									
遺跡	類型	墓構造	備考	出典	遺跡	類型	墓構造	備考	出典
テル・エル・ ファルカ	Class I	土墳墓	矩形	Chlodnicki et al. 2012	ミンシャト・ アブ・オマル	Class I	墓壇規模100以下	楕円形あるいは 矩形の土墳墓	Kroeper and Wildung 1994; 2000
	Class II	竪穴式煉瓦壁墓	単室構造			Class II	墓壇規模101～200		
	Class III	竪穴式煉瓦壁墓	複室構造			Class III	墓壇規模201～300		
メンフィス地域									
遺跡	類型	墓構造	備考	出典	遺跡	類型	墓構造	備考	出典
アブ・ロアシ	Class I	土墳墓	楕円形あるいは矩形	Klases 1958; 1959; 1960; 1961	ザウイェト・ エル＝アリアン	Class I	土墳墓	楕円形あるいは矩形	Dunham 1978
	Class II	壁龕付土墳墓	矩形で容器を埋納する壁龕をもつ			Class II	竪穴式煉瓦壁墓	単室構造	
	Class III	地下式横穴墓	単室・複室でも規模指数が149以下のもの			Class II	竪穴式煉瓦壁墓	単室、木製天井張り	
	Class IV	地下式横穴墓	複室・単室でも規模指数が150以上のもの						
ヘルワン	Class I	土墳墓	円形あるいは矩形	Köhler 2014					
	Class II	両袖棚付土墳墓	矩形で長軸側面にステップが作出された土墳墓						
	Class III	地下式横穴墓	単室構造						
	Class IV	竪穴式煉瓦壁墓	複室構造						
Class V	マスタバ墓	複室上部構造、単室下部構造							
ファイユーム地域					バダリ地域				
遺跡	類型	墓構造	備考	出典	遺跡	類型	墓構造	備考	出典
セドメント	Class I	土墳墓	楕円形あるいは矩形	Petrie and Brunton 1921	バダリ地域	Class I	土墳墓	楕円形あるいは矩形	Brunton 1927; 1938; Brunton and Caton-Tompson 1928
	Class II	壁龕付土墳墓	矩形で容器を埋納する壁龕をもつ			Class II	竪穴式煉瓦壁墓	単室構造	
	Class III	地下式横穴墓	単室構造			Class III	地下式横穴墓	単室構造	
	Class IV	地下式横穴墓	複室構造						
上エジプト地域									
遺跡	類型	墓構造	備考	出典	遺跡	類型	墓構造	備考	出典
ナガ・エド＝ デイル	Class I	土墳墓	楕円形あるいは矩形、土器棺埋葬1基も含む	Reisner 1908	エルカブ	Class I	土墳墓	楕円形あるいは矩形	Hendricks 1994
	Class II	竪穴式煉瓦壁墓	木製天井張り			Class II	竪穴式煉瓦壁墓	単室構造	
	Class III	地下式横穴墓	単室構造、埋葬室には戸口が付属するものと 複室だが規模指数400以下のもの			Class III	地下式横穴墓	単室構造	
	Class IV	地下式横穴墓	複室構造、埋葬室に続く階段が付属するものと 規模指数900以上のもの						

2. 器形・器種の分類

初期王朝時代の石製容器の分類方法は、エマリーが北サッカラ・大型マスタバ墓群出土石製容器を元に確立した (Emery 1939; 1946)。後にアブ・ロアシュ遺跡で新資料が出土し、バリエーションが増加したため、エマリーの分類に該当しない器形である GG, II 類などがクラッセンによって追加された (Klasens 1958; 1959; 1960; 1961)。本論では、それら器形分類に基づき対象遺跡の出土資料総計1,193⁽³⁾点を分類した (図3)。A・B・C・D 類は円筒形壺, G・Z 類は無把手壺, S・T 類は鉢・皿類である。これら3器種は、初期王朝時代を通して普遍的に出土し、しばしば相伴して副葬される「基本器種」である。本論では、これらの分類に該当しない特徴的な器形で、且つ出土が非常に少数なものを「特殊器種」と呼ぶ。ワイン壺や器台、供物台、把手付き壺、ビーカー、盤形容器を始めとして、口縁部が特徴的な深鉢や皿などは、特殊器種に該当する。

3. 石製容器の相対的「価値」

墓は大型になるにつれて埋葬空間も広くなるため、埋置できる副葬品の数も増える。よって、副葬点数以外の指標として、石製容器の質的側面あるいは相対的な「価値」をここで設定したい。先に掲げた分類でいう特殊器種は総数95点で、基本3器種の総数1,098点と比してその出土点数は全体の10%に満たない。この様相は支配者層の墓地である北サッカラ・大型マスタバ墓群でも同様であり、それら特殊器種には希少価値があった。加えて、使用石材の相対的価値も設定したい。低位砂漠に産するトラバーチンや石灰岩はアクセスが容易であることから近傍地産石材と言える (図1)。一方で、泥岩や玄武岩、凝灰岩、閃緑岩、斑岩は、ファイユーム北部や東部砂漠に採石地があるため、近傍地産のものより獲得が困難である⁽⁴⁾。また、玄武岩や閃緑岩、斑岩は非常に硬度が高いことから石灰岩やトラバーチンよりも製作時の作業量は多い⁽⁵⁾。

以上のことから、特殊器種と遠隔地産石材製のものは、その希少性と獲得時および製作時の労力から相対的に基本器種や近傍地産石材製よりも高価値であったと仮定できる。これらを前提条件として、墓構造からみた社会階層と石製容器の器種組成、石材構成、副葬点数を比較することで、石製容器副葬の構造を具体化する。

III. 支配者層墓地出土の石製容器について

まず初めに、当該期の支配者層の集団が埋葬された墓地である北サッカラとウンム・エル＝カブ出土の石製容器を概観し、社会的最上位層における石製容器副葬の組成を把握したい。

(3) エマリーが発掘した北サッカラのマスタバ墓群およびピートリが発掘したウンム・エル＝カブ出土の石製容器については、発掘報告書の中で破片資料を含む全ての資料を掲載しているわけではない。そのため、両遺跡で定量的な分析を行うことはできない。また、第1王朝の代表的な遺跡であるタルカンも扱うことが本来的に望ましい。しかし、当該遺跡の発掘報告書および登録カードに掲載されている墓構造は不明瞭であり、加えて石製容器の実測図が内面まで描かれていない (Petrie 1913)。そのため、エマリーとクラッセンによる器形分類を全資料に対して照合することが困難であることから、タルカン遺跡は本論の分析から除外した。なお、セドメントに関しては、ピートリ博物館が無償で提供している墓の登録カードの情報によって発掘報告書の情報を補填・修正している。

(4) 使用石材の名称については、概ね発掘報告書の記載に依拠する。また、本稿で言及する採石地は、ハレル (Harrel) やブロクサム (Bloxam) らの岩石学的・地質学的調査成果から引用している (Harrel 2013; Harrel et al 2000; Bloxam et al 2014)。

(5) 石灰岩のモース硬度は2.5、トラバーチン3~4、泥岩4~5、玄武岩や閃緑岩、斑岩はそれぞれ7である (Stocks 2003, table 1.1)。ストックス (Stocks) の製作実験では、モース硬度7の花崗岩を穿孔するには石灰岩の15倍もの時間を要するとしている (Stocks 1993)。

● 基本器種

1. 円筒形壺 (A, B, C, D)

2. 無把手壺 (G, Z)

3. 鉢・皿類 (S, T)

● 特殊器種

- ・ ビーカー形 (I, K, O) ・ 尖底壺 (FF) ・ 複数種の鉢, 皿 (U, V, X, GG) ・ 注口壺 (Y)
- ・ 円筒形壺 (E, F) ・ 深鉢 (L, M, N) ・ 水盤 (J) ・ 胴下部くびれ壺 (II)
- ・ 複数種の鉢 (BB, CC) ・ 盤形容器 (Q, R) ・ ワイン壺 (EE) ・ 大型無把手壺 (AA)
- ・ 有頸片把手壺 (DD) ・ 双耳壺 (H, P) ・ 器台 (XX, YY) ・ 供物台 (W) ・ 大型浅皿 (ZZ)

図3 本稿で扱う遺跡の墓構造分類 (Emery 1949, figs. 69A-79; Klasens 1959, figs. 6, 7, 1960, figs. 18, 19; 1961をもとに作成)

北サッカラの台地東の縁辺部には、当時の王族あるいは高官たちが埋葬された特別な墓域があり、初期王朝時代を通じて大型のマスタバ墓が群を成して建造された。当該墓群出土の石製容器は、公表資料だけで1基平均200個体もの副葬点数を数える (Emery 1938; 1939; 1949; 1954; Emery and Klasens 1958)。さらに、第1王朝では、器種と使用石材の全バリエーションが副葬され、貯蔵壺 (EE 類) や片把手壺 (DD 類)、器台 (XX, YY 類)、特徴的な口縁部を有する浅鉢 (BB, CC 類)、大型の盤形容器 (Q, R 類) などの特殊器種は他遺跡では見られない。歴代の王族が埋葬されたウンム・エル＝カアブでも同様の副葬状況にある (Petrie 1900; 1901)。ただし、当該遺跡の資料の大部分が破片且つ未公表⁽⁶⁾であるためかどうか定かではないが、北サッカラと比して特殊器種の副葬は必ずしも多いわけではない。とはいえ、胴部の張り出した円筒形壺 (F 類) や大型の双耳壺 (H 類)、ビーカー (I 類)、水盤 (J 類)、盤形容器 (Q, R 類) といった特殊器種は目立って確認できる。また、円筒形壺はたいていトラバーチン製と石灰岩製のものが主体であるが、北サッカラでは玄武岩製や凝灰岩製、ウンム・エル＝カアブでは斑岩製や凝灰岩製、水晶製のものも散見される。特に水晶製のものは排他的に両遺跡のみで副葬される。支配者層の墓地である両遺跡は、他遺跡と比して石製容器の質・量ともに卓越した様相を呈す。第2王朝では、両墓地ともに特殊器種と遠隔地産石材製のものは減少するが、他遺跡と比して突出した組成の様相に変化はない。

なお、両遺跡では全器種が出土しているにも関わらず、他遺跡で普遍的に見られる無把手壺 (G・Z 類) のみが極めて少数であることに留意する必要があるだろう。

IV. 地域分布

1. 第1王朝時代 (表2)

メンフィス地域のアブ・ロアシュやザウィエト・エル＝アリヤンでは、双耳壺 (H 類) や注口壺 (Y 類)、複数種の皿 (U, V, X, GG 類)、坏 (I 類) といった特殊器種の出土が散見される。供物台 (W 類) は北サッカラとアブ・ロアシュでのみ見られる。メンフィス地域以外の地方墓地ではミンシャト・アブ・オマル、ナガ・エド＝デイルに一定数の出土が確認できるものの、メンフィス地域以外は希薄と言ってよい。同時に、特殊器種や遠隔地産石材もメンフィス地域に集中している様相にある。出土が少数の他地方墓地については、テル・エル＝ファルカから10点、セドメントから8点、バダリ地域およびエルカブからそれぞれ2点のみ出土している。これらいずれの地域からも特殊器種は1~2点のみで、遠隔地産石材はない。また、特殊器種である双耳壺 (H 類) は地方3遺跡で共通して1点ずつ出土している。

当該期の石製容器の出土点数や特殊器種、遠隔地産石材の分布状況はある程度明瞭な中央と地方の二項対立的な様相を浮き彫りにしている。

2. 第2王朝時代 (表2)

全体的に特殊器種のバリエーションと凝灰岩以外の遠隔地産石材は減少する。これと連動し、器種組成および石材構成は前時期と比してより定型化する。地方全体で総出土点数101点から329点と大幅に増

(6) ピートリが1899年から1901年にかけて調査したウンム・エル＝カアブにおける王墓 (ジェル、デン、メリネイト、アジブ、セマルケト、カア、ホル・アハ、パリブセン、カセケムイ) からは、破片資料含め総計5万~10万点に上る石製容器が出土したようであるが (Petrie 1900, 18)、大多数は未報告である。

表2 石製容器の地域分布（上：第1王朝時代，下：第2王朝時代）

地域区分	遺跡	基本器種				特殊器種																合計 遠隔地産石材	
		A, B, C, D	G, Z	S, T	W	I	K	L	U	H	J	Y	V	X	M	E	II	BB	DD				
東部デルタ 地域	ミンシャト・アブ・オマル	7	11	14	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	34	-		
	テル・エル＝ファルカ	3	1	4	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	10	5		
メンフィス 地域	アブ・ロアシュ	42	23	101	5	1	1	-	2	2	-	1	1	1	1	-	-	-	-	181	49		
	ヘルワン																						
	ザウリエト・エル＝アリヤン	10	1	14	-	1	3	2	4	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	41	13		
	タルカン	120	86	101	-	1	3	1	-	5	-	2	3	-	-	-	2	-	-	324	14		
ファイユーム 地域	セドメント	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-		
中部エジプト 地域	バダリ地域	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-		
上エジプト 地域	ナガ・エド＝デイル	12	5	27	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	45	15		
	エルカブ	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-		

地域区分	遺跡	基本器種				特殊器種																合計 遠隔地産石材	
		A, B, C, D	G, Z	S, T	W	I	K	L	U	H	J	Y	V	X	M	E	II	BB	DD				
東部デルタ 地域	ミンシャト・アブ・オマル																						
	テル・エル＝ファルカ	5	35	4	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	47	5		
メンフィス 地域	アブ・ロアシュ	38	113	124	12	2	-	6	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	298	13		
	ヘルワン	80	11	141	3	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	241	22		
	ザウリエト・エル＝アリヤン																						
	タルカン																						
ファイユーム 地域	セドメント	5	10	13	6	-	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	39	3		
中部エジプト 地域	バダリ地域	3	18	10	2	-	2	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	40	2		
上エジプト 地域	ナガ・エド＝デイル	41	24	106	-	-	-	-	-	-	4	1	2	1	2	-	-	-	-	181	61		
	エルカブ	1	14	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-		

加し、特殊器種と遠隔地産石材も全遺跡で確認できる。とくに、平面が楕円形を呈する鉢類（X類）や張り出した底部をもつ皿類（V類）、注口壺（Y類）、口唇部が水平の深鉢類（L類）が多い。ヘルワンで見られる水差し（DD類）、セドメントおよびバダリ地域のBB類、ナガ・エド＝デイルのE類は、第1王朝では北サッカラでのみ副葬される特殊器種である。さらに特記すべきは、第1王朝にザウリエト・エル＝アリヤンとタルカンで限定されていた供物台がこの時期に、点数上は未だ基本器種には達しないものの、2遺跡を除く全遺跡で確認できることである。

ミンシャト・アブ・オマルはこの時期に廃絶するが、同地域のテル・エル＝ファルカでは75点の石製容器が出土する。セドメントとバダリ地域、エルカブでも急増する様相を呈す。中でも、ナガ・エド＝デイルでは副葬される墓数と副葬点数が飛躍的に増加し、地方墓地としては異質な様相にある。墓構造もメンフィス地域の最上位層と遜色なく、大型の墓が多数営まれ、特殊器種や遠隔地産石材も豊富に副葬される。

V. 階層秩序と石製容器の副葬状況

1. 第1王朝時代（表3）

メンフィス地域のアブ・ロアシュ遺跡では、特殊器種と遠隔地産石材が最上位層 Class IV の墓に限定されていたことが明瞭であり、副葬点数も上位になるにしたがい増加傾向にある。最下層の Class I は円筒形壺と鉢・皿類のみでそれぞれ1個体しか副葬されない。当該遺跡では、器種組成と石材構成が

表 3 各遺跡の墓構造類型と石製容器組成の対応表

■第1王朝時代

墓構造類型	基本器種 A, B, C, D G, Z, S, T				特殊器種 W H I K L M U V X Y GG II												遠隔地産石材 合計 平均 点数 平均					
	A	B	C	D	G	Z	S	T	W	H	I	K	L	M	U	V	X	Y	GG	II	合計	平均
Class I (13基)	1	6	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	1.3
Class II (8基)	5	9	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	2.3
Class III (14基)	11	3	20	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37	2.6
Class IV (16基)	35	5	69	1	2	-	1	-	1	2	1	1	8	-	-	-	-	-	-	-	128	8
																					41	2.6

アブ・ロアシユ

墓構造類型	基本器種				特殊器種												合計		遠隔地産石材	
	A, B, C, D	G, Z, S, T	W	H	I	J	K	L	M	U	V	X	Y	GG II	平均	点数				
Class I (1基)	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1				
Class II (1基)	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-				
Class III (2基)	7	3	5	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	21	5.5				
Class IV (2基)	2	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	9.5				

ナガ・エド=デイル

■第2王朝時代

墓構造類型	基本器種 A, B, C, G, Z, S, T			特殊器種 W, E, H, I, J, K, L, M, U, V, X, Y, BB, DD, GG, II												遠隔地産石材 合計 平均 点数 平均			
	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
Class I (1基)	1	14	3	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td></td>	- <td>-<td>18</td><td>3.6</td><td>1</td></td>	- <td>18</td> <td>3.6</td> <td>1</td>	18	3.6	1
Class II (4基)	9	21	14	- <td>-<td>-<td>-<td>1</td><td>1<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>1</td><td>1<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>1</td><td>1<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>1</td> <td>1<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td></td></td></td>	1	1 <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td></td>	- <td>-<td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td></td>	- <td>-<td>47</td><td>11.8</td><td>4</td></td>	- <td>47</td> <td>11.8</td> <td>4</td>	47	11.8	4

デル・エル=ファルカ

墓構造類型	基本器種				特殊器種												合計	平均	遠隔地産石材 点数		
	A	B	C	G, Z, S, T	W	E	H	I	J	K	L	M	U	V	X	Y	BB	DD		GG	II
Class I (4基)				1	2	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	5.3	3
Class II (5基)	25	5	44	3	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	16	11
Class III (2基)	21	1	12	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	36	18	1
Class IV (1基)	2	1	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	19	4
Class V (2基)	50	-	27	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	79	39.5	3

ヘルファン

墓構造類型	基本器種 A, B, C, G, Z, S, T				特殊器種 W, E, H, I, J, K, L, M, U, V, X, Y, BB, DD, GG, II												遠隔地産石材 合計 平均 点数 平均		
Class I (2基)	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	2	-
Class II (4基)	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1.25	-
Class III (4基)	2	10	6	-	-	-	1	1	-	-	2	-	-	-	-	-	24	6	2
																			0.5

バダリ地域

墓構造類型	基本器種 A, B, C, G, Z, S, T				特殊器種 W, E, H, I, J, K, L, M, U, V, X, Y, BB, DD, GG, II												遠隔地産石材 合計 平均 点数 平均		
	-	10	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	3.6	-
Class I (5基)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-
Class II (1基)	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-
Class III (1基)	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-

エルカブ

墓構造類型	基本器種				特殊器種												合計		遠隔地産石材	
	A, B, C, D	G, Z	S, T		W	H	I	K	L	M	U	V	X	Y	GG	II	点数	平均		
Class I (6基)	2	1	7	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	13	2.2		
Class II (1基)	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2		
Class III (2基)	-	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	0.5		
Class IV (8基)	8	-	3	-	3	-	2	1	1	4	-	-	-	-	-	-	22	2.8		
																	9	1.1		

ザワイエト・エル=アリヤン

墓構造類型	基本器種				特殊器種												合計		遠隔地産石材	
	A, B, C	G, Z	S, T		W	H	I	K	L	M	U	V	X	Y	GG	II	平均 点数	平均		
Class I (4基)	2	5	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	4		
Class II (3基)	5	4	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	5		
Class III (1基)	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3		

ミンシヤト・アブ・オヤマル

墓構造類型	基本器種				特殊器種												合計		遠隔地産石材				
	A, B, C	G, Z, S, T	W	E, H, I, J, K, L, M, U, V, X, Y, BB, DD, GG, II	W	E	H	I	J	K	L	M	U	V	X	Y	BB	DD	GG	II	平均	点数	
Class I (11基)	4	12	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	2.5	2
Class II (35基)	13	63	42	4	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	123	3.5	3
Class III (18基)	7	18	33	4	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	65	3.6	3
Class IV (12基)	13	20	38	3	-	1	-	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	81	6.8	5

アブ・ロアシユ

墓構造類型	基本器種				特殊器種												遠隔地産石材							
	A	B	C	G, Z, S, T	W	E	H	I	J	K	L	M	U	V	X	Y	BB	DD	GG	II	合計	平均	点数	平均
Class I (3基)	1	2	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	2	-	-
Class II (1基)	-	2	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	-	-
Class III (5基)	6	5	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	3.8	2	0.4
Class IV (3基)	-	1	5	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	9	3	1	0.3

セドメント

墓構造類型	基本器種				特殊器種												合計		平均		
	A, B, C	G, Z, S, T	W	E, H, I, J, K, L, M, U, V, X, Y, BB, DD, GG, II	W	E	H	I	J	K	L	M	U	V	X	Y	BB	DD	GG	II	
Class I (3基)	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1
Class II (6基)	3	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	1.5
Class III (7基)	6	5	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	24	3.4
Class IV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class V (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class VI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class VII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class VIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class IX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class X (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XXXIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XL (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class XLIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class L (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LVIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXIV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXV (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXVI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXVII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXVIII (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXIX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXX (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	2	-	-	144	16
Class LXXXXI (9基)	30	17	89	2	-	-	-	-													

ナガ・エド=デイル

階層秩序の勾配に沿って副葬された。ザウリエト・エル＝アリヤンでは Class I に特殊器種の副葬が若干見られるものの、やはり最上位層 Class III の墓に多数の特殊器種が集中し種類も豊富である。同じく Class III には遠隔地産石材も集中し、副葬点数も他の墓構造を上回っている。メンフィス地域では、北サッカラにおける支配者層の墓を頂点として、概ね上位層の墓に特殊器種と遠隔地産石材が副葬される傾向が強い。また、北サッカラの大型マスタバ墓群では無把手壺が極めて少数である。無把手壺の少数さは、アブ・ロアシュやザウリエト・エル＝アリヤン、ナガ・エド＝デイルの上位層の墓でも同様であった。

一方で、地方墓地の中では出土点数の多いミンシャト・アブ・オマルでは、石製容器の器種組成や副葬点数といった各属性と墓構造・規模との相関性は全く認められない。ナガ・エド＝デイルにおいては遠隔地産石材が最上位層 Class IV に副葬される傾向が強いが、メンフィス地域のような石製容器の階層秩序を地方墓地で想定することはできない。そもそも両遺跡はいずれも特殊器種が極めて少数である。5 基から10点出土しているテル・エル＝ファルカでも、単純な土壙墓と堅穴墓あるいは墓壙規模間で器種組成・使用石材・副葬点数に差異はない。

2. 第2王朝時代（表3）

メンフィス地域のアブ・ロアシュでは引き続き副葬点数と特殊器種、遠隔地産石材は上位層になるにしたがい増加する傾向にある。ヘルワンでは、特殊器種の多寡は必ずしも階層性とは一致しないものの、遠隔地産石材と副葬点数においては相関性が確認できる。第1王朝に北サッカラにしか副葬されなかった水差し(DD 類)は、この時期ヘルワン遺跡にも器高3cm 前後のミニチュアとして現れるが、Class II の墓に副葬された。テル・エル＝ファルカやバダリ地域、ナガ・エド＝デイルといった地方墓地では、特殊器種と遠隔地産石材が排他的に最上位層の墓群に副葬されるようになり、前時期のメンフィス地域と同じ様相にあることがわかる。一方で、セドメントでは特殊器種と遠隔地産石材は階層に相関なく副葬され、それらに偏在性はない。エルカブでは基本3器種と供物台、近傍産石材のみからなる。

無把手壺はこの時期になってもメンフィス地域、特にヘルワンの上位層の墓には少ない。北サッカラの大型マスタバ墓群とウンム・エル＝カアブでも同様である(Petrie 1901; Emery 1949)。とはいえ、無把手壺の増加に伴って、アブ・ロアシュやそれ以外の地方では、普遍的に上位層の墓からも出土する。また、下位層 Class I の墓には円筒形壺が副葬されない場合が多い。第1王朝のナガ・エド＝デイルや第2王朝のテル・エル＝ファルカ、バダリ地域、エルカブはそれに該当する。

VI. 考察—石製容器副葬の階層構造と社会的機能—

第1王朝時代、石製容器の分布状況から石製容器の副葬が一般的であったのは首都圏であるメンフィス地域とウンム・エル＝カアブの王墓地にほぼ限定されていた。少数ながら地方墓地でも石製容器の副葬は確認できるものの、器種組成と石材構成が階層秩序と一定に共変動する様相はメンフィス地域にのみ認められる。「高価値」な器種・石材は上位層の集団・地域との結びつきが強く、それらは当時の集団・地域間の支配権力関係に対応する形で副葬されたと想定できる(図4)。少なくともメンフィス地域以外の地方に恒常的・安定的な生産組織はなかったであろうし(竹野内 2016)、あるいは目的立って製品が流通していたわけでもないだろう。つまり、当該期には、メンフィス地域とウンム・エル＝カアブ双方のみに石製容器の集約的な生産と副葬が見られる。社会経済的格差や支配権力の地理的範

図4 石製容器副葬の階層構造概念図

構造を做う。メンフィス地域で遵守された副葬原理が中央統制下で地方にまで浸透したようである。一方で、この時期でも北サッカラとウナム・エル＝カアブに加え、無把手壺が最上位層の墓で希薄な遺跡は王族クラスも埋葬されたヘルワンのみである。そう考えると、無把手壺は初期王朝を通じて社会的に極めて高位な集団には敬遠されていた可能性が高い。また、カウ遺跡3112号墓出土鉢形容器の破片の外表面には、王銘（ヘテプ・セケムウイ *Hetep Sekemui*）が刻印されている（Brunton 1927, 17-18, pl. XIX, no. 25）。おそらく贈与品であったことが窺われよう。このことから、バダリ地域はおそらく搬入品に依存していた。セドメント314号墓でもセレクが刻まれた円筒形壺が出土している（Petrie and Brunton 1921, pl. III, no. 31）。遺跡間の容器サイズや石材構成の傾向からも地方墓地に副葬された石製容器は基本的に流通品であり、地方には固有の生産組織はなかったと考えられる（竹野内 2016）。刻印された王銘や容器サイズの様子を見る限り、第2王朝には少なくとも一部の良品は地方へ配布されたのだらう。⁽⁷⁾セドメントとバダリ地域では北サッカラでしか見られないBB類が副葬されたことも、配布による結果と考えるのが妥当であろう。だとすれば、中央から地方豪族へ石製容器を配布する、あるいは階層構造が規範として浸透する必要性やその背景はどこにあったのか。

⁽⁸⁾ 地方豪族との婚姻関係や王とその側近によるエジプト全土の行脚の必要性（Wilkinson 2010）、地方神殿の自立性（Bussmann 2011）は、初期王朝時代が国家社会であれ、未だ中央の求心性と地方の統制が脆弱な社会であったことを示す。そのため、中央と地方の贈与あるいは下賜関係による協同性の確保が必要となり、同じ価値体系や倫理規範の広域的共有が石製容器という物質の媒体を用いることで促進された可能性がある。メンフィス政権の支配者層は、デルタ地域やバダリ地域以南の地方豪族へ向けて石製容器を配布していたことが想定される。そうした配布に加え、婚姻関係の締結や徴税のための行脚は、地方における規範概念の認識・是認へと繋がる。器種の選択と副葬を一つの「儀礼」的行為と捉え

囲に応じて石製容器は利用されていたと考えられる。また、メンフィス地域において、無把手壺は上位層になるにしがい副葬が希薄であった。無把手壺の価値が相対的に低かったことが窺われる。

メンフィス地域に集中する様相は続く第2王朝時代に転換する。当該期に地方墓地でも石製容器の副葬が大幅に増加し、並行してさらなる大量生産化を指向する製作上の技術選択が図られる（Hendrickx et al. 2001; 竹野内 2016）。同時に、地方墓地でも特殊器種と遠隔地産石材に基づく副葬の階層

(7) テル・エル＝ファルカ遺跡では、石製容器の工房址が検出されている（Chłodnicki et al 2012）。容器サイズの傾向からも、当該遺跡出土の石製容器は基本的に在地生産品であると考えられる（竹野内 2016）。そのため、配布ではなくとも、石製容器副葬の階層構造は指向されていたことが想定される。

(8) 代表的な例では、第1王朝時代のナルメル王がナカダ地域の豪族の娘であるネイトヘテプと婚姻関係を結び、上エジプト地域との同盟関係を強めた（Wilkinson 1999, 71）。

るのであれば、こうしたイデオロギー的・象徴的位相の共同性は、集団間・地域間の結びつきを強め、帰属意識を高める（Kertzer 1988; DeMarris et al. 1996; Lucero 2003）。第1王朝時代の階層規範は首都圏であるメンフィス地域内部で生成され且つ社会的上位層を中心としたものであったがゆえに、第2王朝時代における葬送イデオロギー普及の実効性と石製容器それ自体が帯びた社会的権力の物質性や象徴性を裏付けた（Walker and Schiffer 2006）。

メンフィス地域の中心政権は各地の地方豪族へ石製容器を配布したり、徴税のための行脚を実施することによって政治的・イデオロギー的紐帯を結んだ。無論、石製容器の配布は紐帯強化を目論んだ支配者側の行為全体の中の一つに過ぎなかったと評価すべきである。政治権力や経済基盤を形成・向上させるための様々な戦略があったはずである（Lucero 2003, 524）。いずれにせよ、共通「儀礼」の遵守は政体範囲を定め、前よりも大規模な範囲で政治的に組織する際の手段であることから（Kertzer 1988, 19）、これらは地域統合を企図した動きであったことがわかる。

一方で、セドメントでは石製容器副葬の階層性が明瞭でない。上位層の墓構造の中でも、全てが共通して特殊器種と遠隔地産石材を持ち得るわけでもない。地域個別の文脈や自立的な葬送文化の様式も考える必要があろう。そのため、以上のような石製容器の副葬原理は、もとより厳密な約束事とは見做し難く、特殊器種と遠隔地産石材の経済的価値に基づく「緩慢な優先順位・遵守事項」がグラデーションを成すように発露したと考えた方がよさそうである。

VII. 結論と課題

第1王朝においてメンフィス地域首都圏内で紐帯意識を維持・強化すべく、石製容器の特殊器種と遠隔地産石材に基づく副葬の「緩慢な」階層原理が生まれた。第2王朝になると、他地域とより強固な紐帯を結ぶために、石製容器の配布などを介して地域統合を企図したと考えられる。石製容器は集団間・地域間を取り結ぶための戦略的・象徴的な権力資源として、まさに支配者層によって選好され、動員された器物であったと結論づけたい。石製容器の大量生産化の背景の一つには、こうした支配者層の動向を挙げることができる。

以前拙稿において流通・消費される石製容器のサイズの大小や石材構成が地域的な階層性に沿って決定されていたことを述べた（竹野内 2016）。階層秩序に基づく石製容器の流通や副葬は、バルタが指摘するように、ナイル川下流域統一後の社会階層が発達した第1王朝時代から、宗教の中心主題が個人の社会的地位に基づく「来世へのアクセス性の度合い」になったことを反映している（Bárta 2011, 48）。前述した通り、初期王朝社会は国家としては萌芽段階であり、エジプト全土を厳格に管理統制できるほどの成熟した行政機構・官僚制度を有していなかった。古王国時代のようにピラミッド複合体が可視的な象徴資本として権力の維持・再生産を担うわけでもない。そうした状況において、石製容器などの「威信財」⁽⁹⁾を権力基盤とする社会秩序の創出が一つの政治戦略であったと考えても大きな齟齬はあるまい（Friedman and Rowlands 1977）。

(9) フリードマンやローランズが提唱したような威信財システムの構造を念頭に置くと理解しやすい（Friedman and Rowlands 1977）。中央で生産された石製容器は地方豪族へ配布され、豪族はさらに自らの配下へ配る。社会的地位や階層のフィルターに濾された石製容器は徐々に器種・石材が安価なものになり、結果としてピラミッド型の副葬原理になった可能性がある。初期王朝時代では、石製容器の他に織物や青銅製品などが挙げられる。擬制的なリネージュ関係を形成・維持するために、こうした「威信財」と呼称できる物品の生産と配布が有効と考えられている。

一方で、いわゆる垂直的な階層関係だけで一元的にその副葬が決定されていたと考えるのは早計であろう。本稿ではあくまで集団間関係の一つである「墓建造への投下労働量からみた社会的地位や階層性」を共変動にして分析を行った。副葬原理の一つとして確実に社会の垂直性が関わっており、特殊器種や遠隔地産石材といった経済的な価値が高いものほど社会的地位の高い集団がアクセスできるのは当然である。しかし、例えば埋葬儀礼における容器選択の多様性があつたとすれば、個々人の嗜好性や水平的な組織（職業区分や出自の差異）、個人間・集団間の信仰体系など副葬品の選択性に関する決定因子は様々に予想される。もとより、石製容器の副葬状況は一つの副葬原理によって貫かれた単配列的な構造ではなく、複数の要素・因子が共有され且つそのどれもが十分／必要条件にならない「多配列的構造」として見做すべきかもしれない（Needham 1975）。そのためには、他の共変動する属性とのパターンの模索や同時代のスラブステラおよび古王国時代の供物リストとの照合も急務であろう。また、第3王朝のジェセルの階段ピラミッドの地下貯蔵庫からは優に4万点を超える第2王朝に製作された石製容器が出土している（Firth and Quibel 1935）。本稿の対象資料を遙かに陵駕する点数であるため、ここでの結論は当時の石製容器生産を捉えきったものではないことを明記する。

さらに土器や銅製容器といった他の容器との関係性は看過できない。単純に土器の上位互換として石製容器を認識することには多いに疑問符が付く。この時期の土器は基本的に貯蔵用の器形であり、坏や鉢、皿といった供食用容器は少ない。比して石製容器はむしろ鉢や皿が副葬の大多数を占める。また、この時期の銅製容器は注口壺と水盤のセットからなり、いわゆる清めの儀礼に用いられた容器である。こうした葬送上の容器の機能的な差異に関する何らかのパターンがそれらの組み合わせ上で見出されてもおかしくない。こうした土器や銅製容器を含めた容器副葬の解明も課題の一つに挙げ、本稿を閉じることとする。

謝辞

本稿は、日本オリエント学会第57回大会にて口頭発表した「エジプト原・初期王朝時代における石製容器の階層規範」および5th International Congress for Young Egyptologistsにて口頭発表した“The Change of Funerary Culture and Stone Vessel Production in Early State”，第21回日本西アジア考古学会総会・大会にて口頭発表した「エジプト初期王朝時代における石製容器の地域的保有状況と流通網の変化」の成果に基づき大幅に修正を加えたものである。本論を執筆するにあたって、近畿大学の高宮いづみ教授や早稲田大学高等研究所の馬場匡浩准教授にはご助言を賜りました。また、査読者の方々には有益なご指摘を頂きました。末筆ではありますが感謝申し上げます。

なお、本稿は平成28年度研究活動スタート支援（課題番号：16H07272）を受けて行われた研究成果の一部である。

参考文献

- Aston, B. G. 1994: *Ancient Egyptian Stone Vessels: Materials and Forms*, Heidelberg: Heidelberger Orientverlag.
- Bard, K. 1988: “A Quantitative Analysis of the Predynastic Burials in Arment Cemetery 1400-1500,” *The Journal of Egyptian Archaeology* 74, 39-55.
- Bárta, M. 2011: *Journey to the West: The World of the Old Kingdom Tombs in Ancient Egypt*, Prague: Charles University in Prague.
- Binford, L. R. 1971: “Mortuary Practices: Their Study and Their Potential,” *Memories of the Society for American Archaeology* 25, 6-29.
- Brown, J. A. 1981: “The Search for Rank in Prehistoric Burials,” in R. Chapman et al. (eds.), *The Archaeology of Death*, Cambridge: Cambridge University Press, 25-37.
- Brunton, G. 1927: *Qau and Badari*, I, London: British School of Archaeology in Egypt.
- Brunton, G. 1938: *Matmar*, London: British School of Archaeology in Egypt.

- Brunton, G and G. Caton-Tompson 1928: *The Badarian Civilisation and Predynastic Remains near Badari*, London: British School of Archaeology in Egypt.
- Bussmann, R. 2011: "Local Traditions in Early Dynastic Temples," in R. F. Friedman and P. N. Fiske (eds.), *Egypt at Its Origins*, 3, Leuven: Peters, 747-762.
- Carr, C. 1995: "Mortuary Practices: Their Social, Philosophical-Religious, Circumstantial, and Physical Determinants," *Journal of Archaeological Method and Theory* 2/2, 105-200.
- Chłodnicki, M. et al. 2012: *Tell El Farkha, I, Excavations 1998-2011*, Poznan and Krakow: Poznan Archaeological Museum and Institute of Archaeology, Jagiellonian University.
- DeMarris, E. et al. 1996: "Ideology, Materialization, and Power Strategies," *Current Anthropology* 37/1, 15-31.
- Dunham, D. 1978: *Zawiyet El-Aryan*, Boston: Museum of Fine Arts, Boston.
- Ellis, C. 1992: "A Statistical Analysis of the Protodynastic Burials in the "Valley" Cemetery of Kafr Tarkhan," in E. C. M. van den Brink (ed.), *The Nile Delta in Transition: 4th-3rd Millennium BC*, Tel Aviv: Israel Exploration Society.
- Emery, W. B. 1938: *Excavation at Saqqara: The Tomb of Hemaka*, Cairo: Egypt Exploration Society.
- Emery, W. B. 1939: *Excavation at Saqqara 1937-1938: Hor-Aha*, Cairo: Egypt Exploration Society.
- Emery, W. B. 1949: *Great Tombs of the First Dynasty*, Pt. I, Cairo: Egypt Exploration Society.
- Emery, W. B. 1954: *Great Tombs of the First Dynasty*, Pt. II, London: Egypt Exploration Society.
- Emery, W. B. and A. Klasens 1958: *Great Tombs of the First Dynasty*, Pt. III, London: Egypt Exploration Society.
- Engel, E.-M. 2013: "The Organization of a Nascent State: Egypt until the Beginning of the 4th Dynasty," in J. C. M. Garcia (ed.), *Ancient Egyptian Administration*, Leiden and Boston: Brill.
- Firth, C. M and J. E. Quibel 1935: *Excavations at Saqqara: The Step Pyramid*, Cairo: Institut Français d'Archéologie Orientale.
- Friedman, J. and M. J. Rowlands 1977: "Notes towards an Epigenetic Model of the Evolution of 'Civilisation'," in J. Friedman and M. J. Rowlands (eds.), *The Evolution of Social Systems*, London: Duckworth, 201-276.
- Griswold, W. A. 1992: "Measuring Social Inequality at Armant," in R. Friedman and B. Adams (eds.), *The Followers of Horus*, Oxford: Oxbow, 193-198.
- Harrel, J. A. 2013: "Ornamental Stones," *UCLA Encyclopedia of Egyptology*, UC Los Angeles (<http://uee.ucla.edu/>; accessed on 28 November 2016).
- Harrel, J. A. et al. 2000: "An Early Dynastic Quarry for Stone Vessels at Gebel el Manzal el-Seyl, Eastern Desert," *The Journal of Egyptian Archaeology* 86, 33-42.
- Hendrickx, S. 1994: *Elkab, V, The Naqada III Cemetery*, Brussels: Royal Museum of Art and History.
- Hendrickx, S. 2006: "Predynastic-Early Dynastic Chronology," in E. Hornang et al. (eds.), *Ancient Egyptian Chronology*, Leiden and Boston: Brill.
- Hendrickx, S. 2011: "Crafts and Craft Specialization," in E. Teeter (ed.), *Before the Pyramids: The Origins of Egyptian Civilization*, Chicago: Oriental Institute Museum Publications, 93-98.
- Hendrickx, S. 2014: "The Emergence of the Egyptian State," in C. Renfrew and P. Bahn (eds.), *The Cambridge World Prehistory*, vol. 1, Cambridge: Cambridge University Press, 259-278.
- Hendrickxs, S. et al. 2001: "Excavating in the Museum: The Stone Vessel Fragments from the Royal Tombs at Umm el-Qaab in the Egyptian Collection of the Royal Museums for Art and History at Brussels," *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts, Abteilung Kairo* 57, 73-108.
- Jórceczka, M. 2004: "Stone Implements from Tell El-Farkha," in S. Hendrickxs et al. (eds.), *Egypt at Its Origin*, Leuven and Dudley, Mass.: Peeters, 443-463.
- Kemp, B. J. 2000: "The Colossi from the Early Shrine at Coptos in Egypt," *Cambridge Archaeological Journal* 10, 211-242.
- Kertzer, D. I. 1988: *Ritual, Politics, and Power*, New Haven: Yale University Press.
- Klasens, A. 1958: "The Excavation of the Leiden Museum of Antiquities at Abu Roash: Report of the First Season: 1958. Pt. I," *Oudheidkundige Mededelingen uit het Rijksmuseum van Oudheden te Leiden* 39, 32-55.
- Klasens, A. 1959: "The Excavation of the Leiden Museum of Antiquities at Abu Roash: Report of the First Season: 1958.

- Pt. II: Cemetery 400," *Oudheidkundige Mededelingen uit het Rijksmuseum van Oudheden te Leiden* 40, 41-61.
- Klasens, A. 1960: "The Excavation of the Leiden Museum of Antiquities at Abu Roash: Report of the First Season: 1959. Pt. I," *Oudheidkundige Mededelingen uit het Rijksmuseum van Oudheden te Leiden* 41, 69-94.
- Klasens, A. 1961: "The Excavation of the Leiden Museum of Antiquities at Abu Roash: Report of the First Season: 1959. Pt. II," *Oudheidkundige Mededelingen uit het Rijksmuseum van Oudheden te Leiden* 42, 108-128.
- Köhler, C. E. 2008: "Early Dynastic Society at Memphis," in E.-M. Engel et al. (eds.), *Zeichen aus dem Sand: Streiflichter aus Ägyptens Geschichte zu Ehren von Günter Dreyer*, Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 381-399.
- Köhler, C. E. 2014: *Helwan, III, Excavations in Operation 4, Tombs 1-50*, Rahden: Vml Verlag Marie Leidorf.
- Kopp, P. 2007: "Prä- und frühdynastische Steingefäße: Chronologie und soziale Divergenz," *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts, Abteilung Kairo* 63, 193-210.
- Kouli, A. 1978: *Egyptian Stone Vessels: Predynastic Period to Dynasty III: Typology and Analysis*, Mazin: von Zabern.
- Kroeper, K. von and D. Wildung 1994: *Minshat Abu Omar, I, Ein vor und frühgeschichtlicher Friedhof im Nildelta, Gräber 1-114*, Mainz: Verlag Phillip von Zabern in Wissenschaftliche Buchgesellschaft.
- Kroeper, K. von and D. Wildung 2000: "Minshat Abu Omar, II, Ein vor und frühgeschichtlicher Friedhof im Nildelta, Gräber 115-204," Mainz: Verlag Phillip von Zabern in Wissenschaftliche Buchgesellschaft.
- Lucero, L. J. 2003: "The Politics of Ritual: The Emergence of Classic Maya Rulers," *Current Anthropology* 44/4, 523-558.
- Mallory, L. M. 2000: "Predynastic and First Dynasty Egyptian Basalt Vessels," Ph. D. dissertation, University of Toronto.
- Needham, R. 1975: "Polythetic Classification: Convergence and Consequences," *Man (N. S.)* 10/3, 349-369.
- Petrie, W. M. F. 1900: *The Royal Tombs of the Earliest Dynasties*, Pt. I, London: The Egypt Exploration Society.
- Petrie, W. M. F. 1901: *The Royal Tombs of the Earliest Dynasties*, Pt. II, London: The Egypt Exploration Society.
- Petrie, W. M. F. 1913: *Tarkhan I and Memphis V*, London: British School of Archaeology in Egypt.
- Petrie, W. M. F. and G. Brunton 1921: *Sedment I*, London: British School of Archaeology in Egypt.
- Raffaele, F. 2005: "Stone Vessels in Early Dynastic Egypt," *Cahiers Caribéens d'Égyptologie* 7-8, 47-60.
- Reisner, G. A. 1908: *The Early Dynastic Cemeteries of Naga-Ed-Der*, Pt. 1, Leipzig: J. C. Hinrichs.
- Schmidt, K. 1988: "Die lithischen Kleinfunde, Tell el Fara'in-Buto, 3. Bericht," *Mitteilungen des Deutschen Archäologischen Instituts, Abteilung Kairo* 44, 297-306.
- Stocks, D. A. 1993: "Making Stone Vessels in Ancient Mesopotamia and Egypt," *Antiquity* 67/356, 596-603.
- Stocks, D. A. 2003: *Experiments in Egyptian Archaeology: Stoneworking Technology in Ancient Egypt*, London and New York: Routledge.
- Reisner, G. A. 1936: *The Development of the Egyptian Tomb down to the Accession of Cheops*, Cambridge, Mass.: Harvard University Press.
- Tainter, J. A. 1978: "Mortuary Practices and the Study of Prehistoric Social Systems," in M. Schiffer (ed.), *Advances in Archaeological Method and Theory*, 1, New York: Academic Press, 23-33.
- Walker, W. H. and M. B. Schiffer 2006: "The Materiality of Social Power: The Artifact-Acquisition Perspective," *Journal of Archaeological Method and Theory* 13/2, 67-88.
- Wetering, J. von and J. Tassie 2003: "Socio-Political Hierarchy of First Dynasty Sites: A Ranking of East Delta Cemeteries Based on Grave Architecture," in A. K. Eyma and C. J. Bennett (eds.), *A Delta-Man in Yebu*, Boca Raton: Universal Publishers.
- Wilkinson, T. 2010: "The Early Dynastic Period," in A. B. Lloyd (ed.), *A Companion to Ancient Egypt*, vol. 1, Oxford: Wiley-Blackwell, 48-62.
- 竹野内恵太 2015: 「エジプト先・初期王朝時代における石製容器の穿孔・研磨技術序論」『早稲田大学文学研究科紀要』60, 83-99.
- 竹野内恵太 2016: 「エジプト初期王朝時代における石製容器の生産・流通メカニズム: 容器サイズの分析を中心に」『西アジア考古学』17, 117-136.
- 張替いづみ 1991: 「エジプト・ナカダ文化における象牙製品について」滝口宏『古代探叢Ⅲ: 早稲田大学考古学会創立40周年記念考古学論集』, 早稲田大学出版部, 635-650.